



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月10日

上場会社名 丸大食品株式会社

上場取引所 東

コード番号 2288 URL <http://www.marudai.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 俊春

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 加藤 伸佳

TEL 072-661-2518

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	118,287	5.1	861		585		250	82.6
2020年3月期第2四半期	124,667	2.8	2,062	101.1	2,379	93.0	1,434	125.0

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 1,293百万円 (42.0%) 2020年3月期第2四半期 910百万円 (45.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	9.83	
2020年3月期第2四半期	56.42	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	135,779	75,415	55.1	2,946.32
2020年3月期	131,854	75,056	56.5	2,930.66

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 74,844百万円 2020年3月期 74,510百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期				35.00	35.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	238,000	3.2	500	80.9	900	71.1	900	45.6	35.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	26,505,581 株	2020年3月期	26,505,581 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	1,102,872 株	2020年3月期	1,081,261 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	25,420,769 株	2020年3月期2Q	25,432,911 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の再開が段階的に進められるなかで、持ち直しの動きが見られますが、新型コロナウイルス感染症の拡大が内外経済をさらに下振れさせるリスクや、金融資本市場の変動の影響を注視する必要があります、依然として厳しい状況が続いております。

当業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などから、内食や中食需要が高まる一方で、主に外食産業や都市部のコンビニエンスストアの需要は依然として低迷していることに加え、消費者の生活防衛意識の高まりによる価格競争激化や物流コストの上昇などから、非常に厳しい環境となっております。食肉相場におきましては、国産牛肉は外食需要の低迷などにより前年を下回る一方で、国産豚肉は内食需要の高まりなどから前年を上回りました。また、海外調達先からの供給の不安定さや外食需要低迷のなか、米国産牛肉の相場は前年を上回って推移しておりますが、足もとでは前年を下回り、輸入豚肉は総じて軟調な推移となるなど、食肉相場は先行き不透明な状況が続いております。

このような厳しい状況のなか、当社グループは、お客様に、より安全でより安心して召し上がっていただける食品を提供する総合食品メーカーとして、真に社会的存在価値が認められる企業を目指し、企業活動を推進してまいりました。

当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期比5.1%減の1,182億87百万円、営業損失は8億61百万円（前年同期は営業利益20億62百万円）、経常損失は5億85百万円（前年同期は経常利益23億79百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比82.6%減の2億50百万円となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりであります。

【セグメント別業績】

(単位：百万円)

	売上高 (注)			セグメント利益又は損失 (△)		
	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
加工食品事業	86,983	81,535	△5,447 (△6.3%)	1,426	△1,196	△2,622 (-)
食肉事業	37,603	36,666	△937 (△2.5%)	601	297	△303 (△50.6%)
その他	80	84	4 (5.8%)	35	37	1 (4.3%)
合計	124,667	118,287	△6,380 (△5.1%)	2,062	△861	△2,924 (-)

(注) 売上高には、セグメント間の内部売上高は含まれておりません。

【加工食品事業 売上高内訳】

(単位：百万円)

	売上高		
	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
ハム・ソーセージ	38,743	38,077	△665 (△1.7%)
調理加工食品	48,239	43,457	△4,781 (△9.9%)

① 加工食品事業

ハム・ソーセージ部門では、内食需要の高まりから「おうち時間の充実」をテーマにした販売促進を実施し、「燻製屋熟成あらびきポークウインナー」や「いつも新鮮ロースハム」などの主力商品を中心に拡販に努めたほか、人気キャラクターを使用した「おべんとうのすみっこにいれてネ ウインナー」などの新商品を投入し、売上拡大を図りました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により一部の業務用食材が低調な推移となったことや、外出自粛等の影響もあり中元ギフトも伸び悩みました。以上のことから、当部門の売上高は前年同期比1.7%の減収となりました。

調理加工食品部門では、家庭での備蓄用商品として、「ビストロ倶楽部ビーフカレー」シリーズの売上高が伸長したほか、「スンドゥブ」、「サラダチキン」など主力のシリーズ商品が好調に推移しました。一方で、外出自粛要請や在宅勤務などの影響から、都市部を中心としたコンビニエンスストア向け商品が低調に推移したほか、競合他社参入も重なったブラックタピオカ入り飲料の売上高が大きく減少したことなどから、当部門の売上高は前年同期比9.9%の減収となりました。

以上の結果、加工食品事業の売上高は前年同期比6.3%減の815億35百万円となりました。セグメント利益は、売上高の減少や競争激化による低価格化、原材料価格の上昇などから、前年同期を大きく下回り11億96百万円の損失（前年同期は14億26百万円の利益）となりました。

② 食肉事業

牛肉につきましては、国産牛肉はほぼ前年並みの売上高を確保しましたが、輸入牛肉は外食需要の低迷や販売単価下落の影響により売上高が低調に推移し、牛肉全体の売上高は前年を下回りました。豚肉につきましては、アウトパック商品の売上高が伸長したものの、輸入豚肉は海外調達先からの供給量減少や外食需要の低迷を受け、豚肉全体の売上高は前年を若干下回りました。鶏肉につきましては、輸入品の国内在庫量が増加し販売単価を低下させたことにより売上高は減少しました。

以上の結果、食肉事業の売上高は前年同期比2.5%減の366億66百万円となりました。セグメント利益は、外食需要の低迷などにより、前年同期比50.6%減の2億97百万円となりました。

③ その他事業

その他事業の売上高は前年同期比5.8%増の84百万円、セグメント利益は前年同期比4.3%増の37百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

〔連結財政状態〕

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減額
総資産	131,854	135,779	3,925
負債	56,798	60,363	3,565
純資産	75,056	75,415	359
自己資本比率	56.5%	55.1%	△1.4%

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、トーラク株式会社を連結子会社としたことなどから、有形固定資産が22億91百万円、原材料及び貯蔵品が16億34百万円それぞれ増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ39億25百万円増加し、1,357億79百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金が5億円減少しましたが、有利子負債が41億75百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ35億65百万円増加し、603億63百万円となりました。

純資産は、剰余金8億89百万円の配当がありましたが、その他有価証券評価差額金9億16百万円の増加や親会社株主に帰属する四半期純利益2億50百万円の計上などから、前連結会計年度末に比べ3億59百万円増加し、754億15百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末から1.4%低下し、55.1%となりました。

〔連結キャッシュ・フローの状況〕

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,171	2,095	△5,076
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,460	△3,737	△277
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,642	1,291	3,934
現金及び現金同等物の増減額	1,068	△350	△1,418
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,195	7,894	△1,301

営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資金の増加による減少要因がありましたが、減価償却費の計上などから、20億95百万円増加しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の売却による収入がありましたが、生産設備の増強・合理化や品質向上のための固定資産の取得による支出や連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出などから、37億37百万円減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや自己株式の取得による支出がありましたが、有利子負債の増加などから、12億91百万円増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末から3億50百万円減少し、78億94百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などから、内食や中食需要は堅調に推移したものの、外食産業や都市部のコンビニエンスストアの需要低迷、販売競争激化による採算の悪化などから、当第2四半期連結累計期間は、売上高および各利益段階で前年同期を下回る結果となりました。通期連結業績につきましては、外食需要などに回復の傾向は見られますが、デザート・飲料類の売上高の回復が遅れ気味で収益の伸び悩みが見られることや引き続き販売競争激化が見込まれることなどから、2020年8月5日に公表いたしました2021年3月期通期の連結業績予想を修正しております。詳細については、本日(2020年11月10日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,244	7,894
受取手形及び売掛金	27,501	26,722
商品及び製品	11,057	10,992
仕掛品	647	408
原材料及び貯蔵品	5,887	7,521
その他	2,274	1,875
貸倒引当金	△15	△15
流動資産合計	55,597	55,398
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	54,258	61,611
減価償却累計額	△37,644	△43,075
建物及び構築物 (純額)	16,613	18,535
機械装置及び運搬具	62,664	70,239
減価償却累計額	△48,118	△53,481
機械装置及び運搬具 (純額)	14,545	16,758
工具、器具及び備品	4,718	5,243
減価償却累計額	△3,154	△3,620
工具、器具及び備品 (純額)	1,563	1,623
土地	18,392	18,840
リース資産	7,879	8,860
減価償却累計額	△2,467	△3,476
リース資産 (純額)	5,411	5,384
建設仮勘定	2,545	221
有形固定資産合計	59,072	61,364
無形固定資産	3,050	2,929
投資その他の資産		
投資有価証券	10,282	11,612
関係会社株式	121	148
長期貸付金	22	21
退職給付に係る資産	71	315
繰延税金資産	277	402
その他	3,474	3,704
貸倒引当金	△117	△116
投資その他の資産合計	14,133	16,087
固定資産合計	76,256	80,381
資産合計	131,854	135,779

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,165	22,665
短期借入金	8,080	11,006
1年内返済予定の長期借入金	1,887	2,393
リース債務	855	886
未払金	8,942	8,610
未払法人税等	523	233
未払消費税等	448	174
賞与引当金	850	1,019
その他	1,391	1,473
流動負債合計	46,145	48,463
固定負債		
長期借入金	3,933	4,685
リース債務	4,658	4,620
繰延税金負債	550	620
退職給付に係る負債	854	1,285
その他	656	688
固定負債合計	10,652	11,899
負債合計	56,798	60,363
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,716	6,716
資本剰余金	22,086	22,086
利益剰余金	45,676	45,036
自己株式	△2,657	△2,697
株主資本合計	71,821	71,141
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,832	4,749
繰延ヘッジ損益	△2	△6
為替換算調整勘定	40	35
退職給付に係る調整累計額	△1,181	△1,075
その他の包括利益累計額合計	2,688	3,702
非支配株主持分	545	571
純資産合計	75,056	75,415
負債純資産合計	131,854	135,779

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	124,667	118,287
売上原価	96,041	93,868
売上総利益	28,626	24,418
販売費及び一般管理費	26,563	25,280
営業利益又は営業損失(△)	2,062	△861
営業外収益		
受取利息	8	8
受取配当金	173	154
不動産賃貸料	83	80
その他	256	234
営業外収益合計	522	477
営業外費用		
支払利息	109	118
その他	96	82
営業外費用合計	206	201
経常利益又は経常損失(△)	2,379	△585
特別利益		
固定資産処分益	132	32
負ののれん発生益	—	997
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	132	1,030
特別損失		
固定資産処分損	144	104
減損損失	32	42
特別損失合計	177	146
税金等調整前四半期純利益	2,334	298
法人税、住民税及び事業税	847	214
法人税等調整額	35	△194
法人税等合計	883	19
四半期純利益	1,450	279
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	29
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,434	250

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	1,450	279
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△586	916
繰延ヘッジ損益	△5	△3
退職給付に係る調整額	51	106
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△5
その他の包括利益合計	△539	1,014
四半期包括利益	910	1,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	895	1,264
非支配株主に係る四半期包括利益	15	29

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,334	298
減価償却費	3,114	3,749
減損損失	32	42
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	△1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△183	△126
負ののれん発生益	—	△997
受取利息及び受取配当金	△181	△163
支払利息	109	118
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	—
固定資産処分損益 (△は益)	12	71
売上債権の増減額 (△は増加)	2,413	1,632
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,931	△866
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,089	△1,145
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△109	△288
その他	△43	137
小計	7,659	2,461
利息及び配当金の受取額	174	172
利息の支払額	△109	△117
法人税等の支払額	△370	△329
特別退職金の支払額	△181	△90
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,171	2,095
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△17	△17
投資有価証券の売却による収入	0	—
固定資産の取得による支出	△3,597	△3,030
固定資産の売却による収入	333	141
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	—	△1,195
その他	△179	364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,460	△3,737
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△286	2,926
長期借入れによる収入	—	2,440
長期借入金の返済による支出	△966	△2,682
リース債務の返済による支出	△474	△458
配当金の支払額	△889	△889
自己株式の取得による支出	△21	△40
その他	△3	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,642	1,291
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,068	△350
現金及び現金同等物の期首残高	8,127	8,244
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,195	7,894

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	86,983	37,603	124,587	80	124,667	—	124,667
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	389	389	△389	—
計	86,983	37,603	124,587	469	125,056	△389	124,667
セグメント利益	1,426	601	2,027	35	2,062	—	2,062

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行事業等を含んでおりません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては32百万円であります。

当第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	81,535	36,666	118,202	84	118,287	—	118,287
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	374	374	△374	—
計	81,535	36,666	118,202	458	118,661	△374	118,287
セグメント利益又は損失 (△)	△1,196	297	△898	37	△861	—	△861

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおりません。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては42百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「加工食品事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結会計期間にトーラク株式会社の株式を取得したことにより、当第2四半期連結累計期間において、負ののれん発生益997百万円を計上しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	トーラク株式会社
事業の内容	乳加工食品の製造販売

② 企業結合を行った主な理由

神戸を代表するお土産の一つである「神戸プリン」や、ホイップ済みクリームとしてトップシェアを誇る「らくらくホイップ」など、知名度の高いブランドや商品を保有するトーラク株式会社が当社グループに加わるにより、デザート類の更なる拡大を図るため。

③ 企業結合日

2020年7月1日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得により、当社が議決権の100%を獲得したことによるものであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年7月1日から2020年9月30日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,200 百万円
取得原価		1,200 百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 41百万円

(5) 負ののれん発生益の金額及び発生原因

① 負ののれん発生益の金額

997百万円

② 発生原因

企業結合時における時価純資産が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1,835 百万円
固定資産	3,553 //
資産合計	5,389 百万円

流動負債	1,198 百万円
固定負債	1,992 //
負債合計	3,191 百万円